### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

1 1 7 1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					
事業所番号	2173100427				
法人名	社会福祉法人慈恵会				
事業所名	さわやかグループホーム可児	(1ユニット)			
所在地	岐阜県可児市菅刈1389番地の1				
自己評価作成日	平成21年10月9日	評価結果市町村受理日	平成21年12月10日		

#### ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

http://kouhvou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2173100427&SCD=320 基本情報リンク先

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年10月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・第一に「地域に開かれた施設」を目指しています。その活動の一つとして、地元帷子小学校五年生児童との世代間交流に力を入れ ています。20年度は定期的な交流から深い絆が生まれ、放課後は児童が自主的に「遊び」に立ち寄り、音楽で習った曲の披露や国語 の教科書の読み聞かせなどをしてくれる環境づくりに至りました。残念ながら本年度は新インフル予防のため積極的な交流は互いに 自粛していますが、施設長・相談員をはじめ職員が小学校を訪問し福祉教育の一助を担い、その活動は小学校全体に波及していま す。また、当ホームでは定期的な「音楽療法」を通じ、日常的に音楽が近くにある生活を目指しています。先生の毎回魅力的な企画力 もあり「音楽療法」には毎回ほぼご利用者全員が参加くださり、積極的な活動が継続しています。また、総合老人福祉施設の利を生か し、物品や各事業所のハード面の共有はもちろん、ソフト(職員)間の交流も積極的に行なっております。例えばご利用者の情緒不安 定が生じた場合などグループホーム職員のみで解決を目指すのでなく、セクションの垣根を超えてエリア全体で支援に当たっておりま

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ショートステイ、デイサービス、グループホームが同一敷地内にある複合施設である。 開設当初 より「地域に開かれた施設」を目指して活動し6年目を迎え、地域との絆の深まりがその成果とし て現れている。小中学校、自治会との交流はもちろん、寺の住職の定期訪問は利用者にとって 癒しと力強い応援となっている。地域住民の指導と協力の基、屋上で水耕栽培にも力を入れ、 育てた野菜が食卓を賑わせている。複合施設の施設長とホームの管理者は其々の得意分野を 生かしながら、より質の高いケアを目指し切磋琢磨している。また、その思いは複合施設内に止 |まらず、市全体のホームへ広がるようホーム間の調整にも努力している。

V.	サービスの成果に関する項目(アウトカム項目	目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点	検し	たうえで、成果について自己評価します		
	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	↓該≟	取り組みの成果 当する項目に〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	O 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	〇 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価票(1ユニット)

### [セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>5</b>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ι.Ξ	里念「	こ基づく運営			
1		〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理念 を共有して実践につなげている	法人基本方針を基礎として当たり前に地域と共に安心して暮らせるよう理念を揚げています。又ホーム内に基本方針を掲示し、朝、の申し送り時確認しています。	理念には、法人全体のものとホーム独自のものがあり、さらに生活支援10項目を定め、全職員が共有している。中でも「笑顔を絶やさず」を第一に大切にし、利用者が笑顔で普通の暮らしを続けることが出来るよう取り組んでいる。	
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通して自治会長、民生 委員、ご家族代表者等に、地域の行事に参 加できるよう配慮いただいてます。(地域の お祭り、小・中学校の運動会等)	事業所は、積極的に地域の行事に参加する取り組みを続けている。団地の盆踊りや太鼓の演奏に参加したり、小学校の運動会や中学校の音楽祭の見学など、地域との交流が多い。	
3		知症の人の理解や支援の方法を、地域の	在宅総合福祉施設の機能を地域還元できるよう、グループホーム管理者及び、エリア内の各種職員が「出張講座」等の企画にも強力できる体制が整っており認知症に限らず介護に対する相談や施設での実習や見学等も行っている。		
4	(3)	や話し合いを行い、そこでの意見をサービス	開(重要説明事項・契約書・運営規定・事故報告	会議は2ヶ月に1回、市の高齢福祉課職員や元 自治会長、民生委員などと共に家族も交えて 夜に実施されている。利用者家族には、毎月 の近況報告に併せて、行事予定と共に運営推 進会議の案内も送付している。	
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取り組みを 積極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	利用者様の入退所の連絡はもちろん入院や報告すべき事故が発生した場合は、連絡を取っています。また、一昨年度市内5箇所のグループホームにて、可児グループホーム連絡会を開催、行政担当者との連絡調整を図っています。	事業所からは、ヒヤリハット事例の報告など積極的に情報開示をして連携に努めているが、 市の担当者からの働きかけはまだ少ない。	さらには、介護保険の保険者である自治体職員との協働関係を更に確実なものとするため、関係の構築を図られたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員間で玄関の施錠等も含め、気が つかないうちに拘束が行われていないかな ど状況に敏感であるよう努めています。	転倒の危険が高い利用者に対してセンサーマットを設置し、安全確保に努めているが、身体拘束は行われていない。身体拘束に対しての勉強会も実施され、全職員の共通の認識として理解している。	
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内での虐待が見過ごされることがな いよう注意を払い、防止に努めている	法人内の新人・中堅研修、可児エリア内で の学習会で、虐待防止についての研修を行 い、職員に周知しています。特に馴れ合いに ならないよう、気をつけています。		

			カコモケ	₩ ±0=±.13	<u>г</u>
自自	外	項目	自己評価	外部評価	
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それらを 活用できるよう支援している	管理者・介護主任は認知症リーダー研修 や、岐阜県主催の認知症講座・介護支援専 門員研修・他9名の職員が、認知症実践者 研修を受けています。現在、地域権利擁護・ 成年後見制度を必要とされている対象のご 利用者はみえませんが。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利 用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分 な説明を行い理解・納得を図っている	「契約書」「重要事項説明書」の取り交わしについては、事前面接時にも、十分な説明の時間を設け、更に、入所時にも十分に時間をとるなどご理解、ご納得をいただいてから実施しています。		
		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている		利用者・家族からの意見・要望は、毎月実施されるエリア会議や幹部会議で検討している。地域の寺の住職が定期的に訪問し、利用者との会話の中で自然に個々の思いや願いを聞きだすなど環境や雰囲気作りに努力している。	
11	(7)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議、各ユニット会議、担当 者会議を開催し、職員からの意見提案を、 ホーム運営に活かしています。	職員会議のほかにも、インターネットのホームページへの書き込みなど、職員が自活的に意見の提案ができるような取り組みがある。	
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って働 けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリア長、管理者は、職員の個人目標を把握し、常に職員の努力、実績、勤務状況にも 目を向け、向上心、勤労を奨励しています。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニン グしていくことを進めている	法人研修会にて「新人」「中堅」「リーダー」 研修の受講の奨励、エリア内学習会、介護 福祉士受講講座、外部教育システムへの参 加も奨励しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質 を向上させていく取り組みをしている	当法人にはグループホームが6箇所、姉妹 関係の事業所が1ヶ所あり2ヶ月に、2ヶ月に 1回サービス提供、コンプライアンスに関する 情報交換や学習会を行っています。また「可 児グループホーム連絡会」の有効活用に努 めています。		

自	外		自己評価	外部評価	<b>5</b>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II . <del>2</del>	安心と		サービス利用に際しては、担当ケアマネージャーからの情報を基本に、直接ご本人、ご家族から心身状況は基より、生活歴・時代背景・家族構成・趣味・性格等、可能な限りの情報を収集しアセスメント実施している。サービス開始後も日々の生活の中から要望や新しい情報を直接聞き取るよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	ご本人からいただいた情報の実態確認やご家族様にしか分からない「サービス利用にいたる経緯」を、ご利用者の性格、家族歴、生活歴、環境、病歴、主治医、認知症の状況等を丁重に伺いアセスメントに反映し、サービス開始後も、面接時や近況報告等にて情報収集の機会を持ち信頼関係を築いています。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	常にご利用者、ご家族様の立場に立ち、近況の把握と傾聴等より、「その時」のニーズを見極め、何が一番必要か、ご利用者、ご家族様に方向性が見出せるようご助言しています。選択に当たっては、それぞれのメリット・デメリットの提示を心がけています。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	職員はご利用者の生活歴や心身の現状を 観察し、ともに掃除や洗濯干しや取り入れ等 を行ったり、買い物、水まき、草取りなど、暮 らしの中での役割を持っていただき、ご自身 のやりがいの発見を心がけています。		
19		に本人を支えていく関係を築いている	サービス開始がご利用者とご家族様の関係が 希薄なものにすることが無い様、ご家族様の面会 はもちろん、ご利用者様の外出・外泊に制限は作らず、緊急時以外の受診対応の調整や、家族会や行事への参加の案内、衣替えなど、「近況報告」を利用するなど、日常的にふれあう機会により、ともにご本人を支えていける支援を心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	面会や外出、外泊への規制は極力しないことを基本に訪問を奨励している。また買い物等、日常的な外出や、地域のご利用者の多い併設のデイサービスやショウートステイ等への訪問、情報交換に留意し、知人、友人との交流に心がけています。	馴染みの場所・人とのつながりが保てるよう、 面会・外出・外泊の制限はない。自宅で可愛 がっていたペットの面会を受け入れたり、ショー トステイ中の利用者との面会の機会など、馴染 みの関係が維持できるように努めている。	

- Lul	されてかグルーノホーム可先	ムコ転圧	H #15m 1	E
	項目			
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え	職員がキーになる事を心がていますが、利用者 様の中には帰宅願望で心が揺れている利用者様 に対して優しい言葉かけが合ったり、体調不良の 利用者様への心づかいがあったり、散歩の際、 積極的に手をつないでいただいたりと、支えあい の光景がよくみられています。		
	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	もちろん、法人「サービスセンターに」早急に情報 提供し退所後困らないよう担当ケアマネージャー を調整するなどの支援をしている。また、必要に 応じて情緒安定を目的とした退所先への面会を 実施しています。		
その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネシ	ジメント		
(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	日ごろより、ご利用者個々の嗜好や行事の企画、また趣味の希望等を伺い、できる範囲での実現を目指している。同時に、ご家族の意向を「近況報告」や電話、ケアカンファレンスの際聞き取り、ご希望等、ご本人に合わせ対応しています。	利用者の食の好みや趣味についても把握に努めている。食事にうどんが出た折に「うどんよりきしめんが好き」と利用者に言われ、利用者の嗜好を把握していなかったクレームととらえ管理者に対しヒヤリハット報告が提出されるほど、個々の対応に努力している。	
	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過	ご本人との会話を中心に、ご家族・知人の方々から、情報を収集し把握に努めているが、中には様々な理由で把握が難しいケースもあり、ケースバイケースでできる限りの取り組みをしています。		
	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	のリスクにり留意。必要に応じたバイタルチェック、食事や排泄状況を記録に記録に残し、朝夕のバイタルチェック、食事や排泄状況を記録に残し、朝夕の申し送りにて状況の把握と対応の統一確認をしています。		
	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイディアを反	ご本人ご家族の参加を基本としたカンファレンスを開催し意見、情報交換を実施しています。また、必要に応じて併設事業所の栄養士、社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員の意見収集も実施し介護計画立案に反映していま		
	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活	リング、評価表を通して実践結果を評価し、次のケアプランに活かす努力をしています。また、体		
	<b>その</b> (9)	部	部	部 現自 実践状況 実践状況 実践状況 別用者同士の関係の支援

	外	ロースの元	自己評価	外部評価	ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅総合老人福祉施設の機能を生かし、ハード面の協有はもちろん、日中デイサービスのレク参加・短期入所の夜間対応・介護支援専門員からの福祉用具選定指導等、また関連医療法人(急性期総合病院、精神科病院)との連携を適宜調整しています。		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安 全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう 支援している	2回実施、帷子小学校、中部中学校、万一の協力体制構築のため駐在所との地域交流に努めています。		
30		〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の 関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している	常態把握やホームでの対応方法を指導いただく	家族の協力を得て馴染みのかかりつけ医へ受診しており、薬は家族から事業所に届けられ、看護師が管理ている。緊急の場合は職員が対応し、家族は病院へ直行するような連携がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝 えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護 を受けられるように支援している	当ホームの看護師の日常の状態観察を基本に、夜間等緊急時の対応も併設事業所看護師との連携を図り、迅速な対応を心がけています。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院内のソーシャルワーカー、看護師長との連携を取り入退院をスムーズに行う他、面会に行き、近況を把握しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合いを 行い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる	る場合、ご家族、主治医との連絡を図り、エリア 長、生活相談員を交えカンファレンスを開催、ご 利用者ご家族様の意思確認を図りそこで、ご利	事業所として終末期ケアは行っていないが、 100歳を超える高齢の利用者もおり、万一のことも想定し職員間で話し合っている。重度化や終末期に対しては、利用者・家族の意向を聞き取り、希望に添えるよう法人内での職員連携がとられている。	
34		期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署主催の救急救命講習に参加し、A EDの講習も受けています。ご利用者の急変、事 故発生時の救急対応はマニュアル化してありま す。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築い ている	開催時より設置のスプリンクラー等の設備 に依存せず、月1回の非難訓練を行い、日頃 の災害防止に努めています。	開設時からスプリンクラーが設置され、消火器も見やすい場所に置かれている。毎月、水害や地震を想定した避難訓練が実施され、ヘルメットをかぶり避難する利用者の姿をホームページ上にも掲載している。	

		さわやかグルーノホーム可児	<u> </u>	LI +p=== 1	<del></del>
自	外	項目	自己評価	外部評価	
己	部	,	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支	爱		
		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバ シーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人「個人情報管理規定」にそった説明を 実施、同意の場合ご家族より同意書に署 名、捺印をいただく。これにより、果たすべき 義務として情報管理には十分配慮していま す。また、介護援助の際は、他のご利用者 に気兼ねしないですむ排泄や入浴の実践 等、各種個人情報の管理に努めています。	職員は、ミーティングなどでプライバシーへの配慮について学び、話し合い、意識の共有化を図っている。介助時に利用者の誇りを傷つけるような言動は行われていない。また、過去の生活歴を踏まえ、個々に対応している。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	日々の傾聴を基本とし、各種情報収集を図りご本人を知りその上で、質問方法を考慮し、できる限り希望に沿った日常生活の実現のための支援を心がけています。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援 している	ご本人の体調等その時の心身常態に合わせた食事や入浴・排泄・趣味活動を支援しています。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	理美容に関しては、ご本人、ご家族様の希望の沿っています。また、2月に1回訪問理美容があり理容師が直接希望を確認し、本人の選択にお任せしています。普段の整容には職員が声掛けに配慮し、要望を伺った上で支援しています。		
40		〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員 が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好を考慮し献立に反映させ、下ごしらえ、配膳、盛り付け、片付けなどできる限り一緒に行っています。	大きな食卓テーブルに職員も共に席に着き、時間をかけてゆっくりと個々の利用者のペースを大切に食事をしている。ご飯やお茶のおかわりの声掛けもあり、大家族の食事風景のようである。食後は食器の後片付けに参加する利用者の姿があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	体重増加の防止、水分制限の支持など 個々の食事摂取量を把握し状態に応じた対 応に努めています。		

自	外	ニーニー	自己評価	外部評価	Th
己	部	項目	実践状況	実践状況	ー 次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者の心身能力に合わせた 口腔ケアの援助をしています。またしゅう2回 を基本に必要に応じた頻度で義歯洗浄剤に て清潔を保つように努めています。		
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かし て、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた 支援を行っている	できるだけ現状維持に努め、個別の排泄 方法を、職員で会議を持ち、変更の場合は ご家族様に連絡了解を得ています。	耳元での声掛け、誘導が行われている。状況 に応じてオムツの種類を変更しており、家族に も連絡を取り、認識の共有化を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	毎日の排尿・排便をチェック表にて確認し、便秘の訴えのある方や、排便コントロールの困難な方はご家族、主治医に相談し対応しています。また食物繊維の多い、野菜等の摂取、ラジオ体操、散歩等で身体を動かして予防しています。		
45	,	をしている	ご本人の心身状況に合わせた見守りと必要	浴槽は一般家庭と変らない大きさであるが、介助スペースは十分にあり、脱衣所に暖房設備もある。隔日の入浴であるが、出来るだけ利用者の要望に答えれるよう努力している。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れ るよう支援している	就寝時間はもちろん、居室の明るさなど、 それぞれご本人の好みに添えるよう、配慮し 安眠を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の処方箋は各五利用者様用ケースに 保管、どの職員も確認できます。処方箋が変わった場合は申し送りノートに記載して、情報の共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴等の観察から、趣味や得意な事を生かせる場面を創るなど、生きがいや達成感を感じていただけるよう支援しています。		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に 出かけられるよう支援に努めている。又、普 段は行けないような場所でも、本人の希望を 把握し、家族や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援している	歩や買い物に出掛けています。最低でも、月 1回の外食や、ご本人のご希望に応じたドラ	インフルエンザの影響もあり、外出回数はやや減少しているようであるが、利用者の体調に注意しながら散歩の他にも買物や外食など外出の支援を行っている。	

自	外		自己評価	外部評価	ш
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望やカに応じ て、お金を所持したり使えるように支援して いる	小額を自己管理されているご利用者もおられご家族が面会時確認していただいてますが、しまい忘れ等のトラブルのある方もあり、同敷地内の短期入所施設事務所の金庫で保管、買い物等の際にそれを利用し欲しい物を購入しています。		
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援をして いる	ご家族への電話希望があれば、その都度 対応しています。またご家族からの電話にで ていただきお話していただきます。要望や促 しにより、年賀状や手紙の投函の支援をして います。		
52	(19)	うな工夫をしている 	てます。	ユニットごとに工夫されており、併設のショートステイやデイサービスがあるため、人の出入りが気になる1階ユニットは落ち着いた色調のカーテンが掛けられ、外の様子が気にならない配慮がされている。2階ユニットは窓が大きく、開放的な雰囲気で、屋上菜園が楽しめる。昼食後、のんびりテラスで日光浴を行う利用者もいる。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合っ た利用者同士で思い思いに過ごせるような 居場所の工夫をしている	リビングで他利用者と過ごされたり、自室 でテレビ・読書等されたりと、使い分けをされ てます。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族 と相談しながら、使い慣れたものや好みのも のを活かして、本人が居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている	みの家具などご意向にできる限り対応してい	居室には、利用者本人の長く愛用した品や家族の写真などが持ち込まれている。どの居室も個性豊かな工夫がされ、利用者が穏やかに過ごしている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立 した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーとなっています。 トイレは車椅子用と普通トイレを設置、浴室 は手摺・入浴補助具を揃え、安全かつ、でき る限り自立した生活ができるよう、ご本人に 寄り添うケアに努めています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100427			
法人名	社会福祉法人慈恵会			
事業所名	さわやかグループホーム可児	さわやかグループホーム可児(2ユニット)		
所在地	岐阜県可児市菅刈1389番地の1			
自己評価作成日	平成21年10月9日	評価結果市町村受理日	平成21年12月10日	

※事業所の基本	青報は、	公表セン	ターページ	で閲覧し	てください。	(↓このUI	RLをクリック)

基本情報リンク先

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記人)】

# 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します 取り組みの成果 取り組みの成果 項目 項目 ↓該当するものに○印 ↓該当する項目に○印 1. ほぼ全ての利用者の 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め 1. ほぼ全ての家族と 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 2. 利用者の2/3くらいの ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい 2. 家族の2/3くらいと 56 掴んでいる 3. 利用者の1/3くらいの 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:23,24,25) 4. ほとんど掴んでいない (参考項目:9.10.19) 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 1. 毎日ある 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 2. 数日に1回程度ある 2. 数日に1回程度 57 ある 64 の人々が訪ねて来ている たまにある 3. たまに (参考項目:18.38) (参考項目:2,20) 4. ほとんどない 4. ほとんどない 1. ほぼ全ての利用者が 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 1. 大いに増えている 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 2. 利用者の2/3くらいが 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 2. 少しずつ増えている (参考項目:38) 解者や応援者が増えている 3. 利用者の1/3くらいが 3. あまり増えていない 4. ほとんどいない (参考項目:4) 4. 全くいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての職員が 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 66 職員は、活き活きと働けている 2. 利用者の2/3くらいが 2. 職員の2/3くらいが 59 情や姿がみられている 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:11.12) 3. 職員の1/3くらいが (参考項目:36.37) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての利用者が 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 2. 利用者の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが 67 足していると思う (参考項目:49) 3. 利用者の1/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての家族等が 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお 2. 利用者の2/3くらいが 2. 家族等の2/3くらいが 68 おむね満足していると思う 61 過ごせている 3. 利用者の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが (参考項目:30.31) 4. ほとんどいない 4. ほとんどできていない 1. ほぼ全ての利用者が 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

自	外		自己評価	外部評価	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	部	項 目	実践状況	実践状況	************************************
		こ基づく運営		<b>天</b> 政	次のハブブブに同じて別付したいで
		〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理念 を共有して実践につなげている	法人基本方針を基礎として当たり前に地域と共に安心して暮らせるよう理念を揚げています。又ホーム内に基本方針を掲示し、朝、の申し送り時確認しています。		
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通して自治会長、民生 委員、ご家族代表者等に、地域の行事に参 加できるよう配慮いただいてます。(地域の お祭り、小・中学校の運動会等)		
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	在宅総合福祉施設の機能を地域還元できるよう、グループホーム管理者及び、エリア内の各種職員が「出張講座」等の企画にも強力できる体制が整っており認知症に限らず介護に対する相談や施設での実習や見学等も行っている。		
		〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービス 向上に活かしている	ホームでの様々な近況を報告し、会議の中で意見を求めてきました。また、できる限り、情報を公開(重要説明事項・契約書・運営規定・事故報告書・ヒヤリハットに関する統計、内容説明)ボランティアの依頼等こちらからも情報収集に心がけています。		
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取り組みを 積極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	利用者様の入退所の連絡はもちろん入院や報告すべき事故が発生した場合は、連絡を取っています。また、一昨年度市内5箇所のグループホームにて、可児グループホーム連絡会を開催、行政担当者との連絡調整を図っています。		
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準に おける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員間で玄関の施錠等も含め、気が つかないうちに拘束が行われていないかな ど状況に敏感であるよう努めています。		
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内での虐待が見過ごされることがな いよう注意を払い、防止に努めている	法人内の新人・中堅研修、可児エリア内での学習会で、虐待防止についての研修を行い、職員に周知しています。特に馴れ合いにならないよう、気をつけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それらを 活用できるよう支援している	管理者・介護主任は認知症リーダー研修や、岐阜県主催の認知症講座・介護支援専門員研修・他9名の職員が、認知症実践者研修を受けています。現在、地域権利擁護・成年後見制度を必要とされている対象のご利用者はみえませんが。		

	県	<u>さわやかグループホーム可児</u>			
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利 用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分 な説明を行い理解・納得を図っている			
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている			
11	(7)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議、各ユニット会議、担当 者会議を開催し、職員からの意見提案を、 ホーム運営に活かしています。		
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働 けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリア長、管理者は、職員の個人目標を把握し、常に職員の努力、実績、勤務状況にも 目を向け、向上心、勤労を奨励しています。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニン グしていくことを進めている	法人研修会にて「新人」「中堅」「リーダー」 研修の受講の奨励、エリア内学習会、介護 福祉士受講講座、外部教育システムへの参 加も奨励しています。		
14		を向上させていく取り組みをしている	当法人にはグループホームが6箇所、姉妹 関係の事業所が1ヶ所あり2ヶ月に、2ヶ月に 1回サービス提供、コンプライアンスに関する 情報交換や学習会を行っています。また「可 児グループホーム連絡会」の有効活用に努 めています。		
II .5	安心と	と信頼に向けた関係づくりと支援			
15			サービス利用に際しては、担当ケアマネージャーからの情報を基本に、直接ご本人、ご家族から心身状況は基より、生活歴・時代背景・家族構成・趣味・性格等、可能な限りの情報を収集しアセスメント実施している。サービス開始後も日々の生活の中から要望や新しい情報を直接聞き取るよう心がけています。		

岐阜	県 さ	<u>さわやかグループホーム</u>	可児

	<u>·                                    </u>	<u>さわやかグループホーム可児</u>			
自己	外	項目	自己評価	外部評価	
	部	. –	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	ご本人からいただいた情報の実態確認やご家族様にしか分からない「サービス利用にいたる経緯」を、ご利用者の性格、家族歴、生活歴、環境、病歴、主治医、認知症の状況等を丁重に伺いアセスメントに反映し、サービス開始後も、面接時や近況報告等にて情報収集の機会を持ち信頼関係を築いています。		
17		ている	常にご利用者、ご家族様の立場に立ち、近況の 把握と傾聴等より、「その時」のニーズを見極め、 何が一番必要か、ご利用者、ご家族様に方向性 が見出せるようご助言しています。選択に当たっ ては、それぞれのメリット・デメリットの提示を心が けています。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	職員はご利用者の生活歴や心身の現状を観察し、ともに掃除や洗濯干しや取り入れ等を行ったり、買い物、水まき、草取りなど、暮らしの中での役割を持っていただき、ご自身のやりがいの発見を心がけています。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共 に本人を支えていく関係を築いている	サービス開始がご利用者とご家族様の関係が 希薄なものにすることが無い様、ご家族様の面会 はもちろん、ご利用者様の外出・外泊に制限は作 らず、緊急時以外の受診対応の調整や、家族会 や行事への参加の案内、衣替えなど、「近況報 告」を利用するなど、日常的にふれあう機会によ り、ともにご本人を支えていける支援を心がけて います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	面会や外出、外泊への規制は極力しないことを 基本に訪問を奨励している。また買い物等、日常 的な外出や、地域のご利用者の多い併設のデイ サービスやショウートステイ等への訪問、情報交 換に留意し、知人、友人との交流に心がけていま す。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え 合えるような支援に努めている	職員がキーになる事を心がていますが、利用者様の中には帰宅願望で心が揺れている利用者様に対して優しい言葉かけが合ったり、体調不良の利用者様への心づかいがあったり、散歩の際、積極的に手をつないでいただいたりと、支えあいの光景がよくみられています。		

	.県	<u>さわやかグループホーム可児</u>			
自己	外	項目	自己評価	外部評価	
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまで の関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に 努めている	入院が長期化し退所に至るケースの割合が多いが病院のソーシャルワーカーとの連絡調整はもちろん、法人「サービスセンターに」早急に情報提供し退所後困らないよう担当ケアマネージャーを調整するなどの支援をしている。また、必要に応じて情緒安定を目的とした退所先への面会を実施しています。		
Ш.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネシ	ジメント		
23	(9)	の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	日ごろより、ご利用者個々の嗜好や行事の 企画、また趣味の希望等を伺い、できる範囲 での実現を目指している。同時に、ご家族の 意向を「近況報告」や電話、ケアカンファレン スの際聞き取り、ご希望等、ご本人に合わせ 対応しています。		
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	ご本人との会話を中心に、ご家族・知人の方々から、情報を収集し把握に努めているが、中には様々な理由で把握が難しいケースもあり、ケースバイケースでできる限りの取り組みをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	日頃の観察より、普段との違いへの気付きに努めることを基本とする。また加齢に伴う体調変化のリスクにり留意。必要に応じたバイタルチェック、食事や排泄状況を記録に記録に残し、朝夕のバイタルチェック、食事や排泄状況を記録に残し、朝夕の申し送りにて状況の把握と対応の統一確認をしています。		
26	(10)	り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反	ご本人ご家族の参加を基本としたカンファレンスを開催し意見、情報交換を実施しています。また、必要に応じて併設事業所の栄養		
27			日々ケアプランに沿った経過記録を残し、 モニタリング、評価表を通して実践結果を評価し、次のケアプランに活かす努力をしています。また、体調変化は介護・看護ケースに記録を残し、職員間の情報の共有、必要に応じ、ご家族に電話にて状態をお伝えし理解を促しています。		

岐阜県 さわやかグループホーム可児 外部評価 自 外 自己評価 項目 己 部 実践状況 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 28 在宅総合老人福祉施設の機能を生かし、ハー 本人や家族の状況、その時々に生まれる ド面の協有はもちろん、日中デイサービスのレク ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ 参加・短期入所の夜間対応・介護支援専門員か らの福祉用具選定指導等、また関連医療法人 れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 (急性期総合病院、精神科病院)との連携を適宜 に取り組んでいる 調整しています。 〇地域資源との協働 29 演芸等、各種ボランティアを積極的に受け入れ 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を ている。また、消防署指導の救急・防災訓練等年 2回実施、帷子小学校、中部中学校、万一の協力 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安 |体制構築のため駐在所との地域交流に努めてい 全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう ます。 支援している 30 (11) 〇かかりつけ医の受診支援 主治医はご本人やご家族様の希望を基本とし、 受診は、本人及び家族等の希望を大切に ご家族様による受診をお願いしています。緊急時 や、ご家族での受診が困難な場合は、ご本人の し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の 常態把握やホームでの対応方法を指導いただく 関係を築きながら、適切な医療を受けられる ため、看護師、相談員が同行し主治医との連携を ように支援している 図っています。 ○看護職との協働 31 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や 当ホームの看護師の日常の状態観察を基本 気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝 に、夜間等緊急時の対応も併設事業所看護師と えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護 の連携を図り、迅速な対応を心がけています。 を受けられるように支援している 〇入退院時の医療機関との協働 32 利用者が入院した際、安心して治療できるよ 入院先の病院内のソーシャルワーカー、看護師 うに、又、できるだけ早期に退院できるよう 長との連携を取り入退院をスムーズに行う他、面 に、病院関係者との情報交換や相談に努め 会に行き、近況を把握しています。 ている。あるいは、そうした場合に備えて病 院関係者との関係づくりを行っている 33 (12) 〇重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 加齢や病態悪化時により医療依存度が増大す 重度化した場合や終末期のあり方につい る場合、ご家族、主治医との連絡を図り、エリア て、早い段階から本人・家族等と話し合いを 長、生活相談員を交えカンファレンスを開催、ご |利用者ご家族様の意思確認を図りそこで、ご利 行い、事業所でできることを十分に説明しな 用者ご家族様のご希望を優先できる対応を心が がら方針を共有し、地域の関係者と共に けています。 チームで支援に取り組んでいる ○急変や事故発生時の備え 34 毎年、消防署主催の救急救命講習に参加し、A 利用者の急変や事故発生時に備えて、全て EDの講習も受けています。ご利用者の急変、事 の職員は応急手当や初期対応の訓練を定 故発生時の救急対応はマニュアル化してありま 期的に行い、実践力を身に付けている 35 (13) 〇災害対策 開催時より設置のスプリンクラー等の設備に依 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 存せず、月1回の非難訓練を行い、日頃の災害防 利用者が避難できる方法を全職員が身につける 止に努めています。

とともに、地域との協力体制を築いている

岐阜밀	さわわか	グルーフ	プホーム可児
WY == ==	-47.51	<i>, , , ,</i>	/N ABI //:

自	外	マングラング ファース 可児 項 目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支	爱		
		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバ シーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人「個人情報管理規定」にそった説明を 実施、同意の場合ご家族より同意書に署 名、捺印をいただく。これにより、果たすべき 義務として情報管理には十分配慮していま す。また、介護援助の際は、他のご利用者 に気兼ねしないですむ排泄や入浴の実践 等、各種個人情報の管理に努めています。		
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	日々の傾聴を基本とし、各種情報収集を図りご本人を知りその上で、質問方法を考慮し、できる限り希望に沿った日常生活の実現のための支援を心がけています。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援 している	ご本人の体調等その時の心身常態に合わせた食事や入浴・排泄・趣味活動を支援しています。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	理美容に関しては、ご本人、ご家族様の希望の沿っています。また、2月に1回訪問理美容があり理容師が直接希望を確認し、本人の選択にお任せしています。普段の整容には職員が声掛けに配慮し、要望を伺った上で支援しています。		
40	,	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員 が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好を考慮し献立に反映させ、下ごしらえ、配膳、盛り付け、片付けなどできる限り一緒に行っています。		
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	体重増加の防止、水分制限の支持など 個々の食事摂取量を把握し状態に応じた対 応に努めています。		

岐阜県 さわやかグループホーム可児 自己評価 外部評価 自 外 項目 己 部 実践状況 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 42 〇口腔内の清潔保持 毎食後、ご利用者の心身能力に合わせた口腔 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 ケアの援助をしています。またしゅう2回を基本に 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 必要に応じた頻度で義歯洗浄剤にて清潔を保つ じた口腔ケアをしている ように努めています。 43 (16) 〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 できるだけ現状維持に努め、個別の排泄方法 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かし を、職員で会議を持ち、変更の場合はご家族様 て、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた に連絡了解を得ています。 支援を行っている ○便秘の予防と対応 44 毎日の排尿・排便をチェック表にて確認し、便秘 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の訴えのある方や、排便コントロールの困難な方 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ はご家族、主治医に相談し対応しています。また た予防に取り組んでいる 食物繊維の多い、野菜等の摂取、ラジオ体操、散 歩等で身体を動かして予防しています。 45 (17) 〇入浴を楽しむことができる支援 利用者様には1日おきの入浴を基本とし、ご本 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 人の心身状況に合わせた見守りと必要に応じた 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決介助を心がけ、ゆっくりと入浴していただいてま めてしまわずに、個々にそった支援をしている 46 〇安眠や休息の支援 就寝時間はもちろん、居室の明るさなど、それ 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に |応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れ | ぞれご本人の好みに添えるよう、配慮し安眠を支 援しています。 るよう支援している 〇服薬支援 47 薬剤の処方箋は各五利用者様用ケースに保 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬|管、どの職員も確認できます。処方箋が変わった 場合は申し送りノートに記載して、情報の共有に の支援と症状の変化の確認に努めている 努めています。 〇役割、楽しみごとの支援 48 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう ご本人の生活歴等の観察から、趣味や得意な 事を生かせる場面を創るなど、生きがいや達成 に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 感を感じていただけるよう支援しています。 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援 をしている 49 (18) 〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に 天候や季節に配慮しながら、ほぼ毎日散歩や 出かけられるよう支援に努めている。又、普 買い物に出掛けています。最低でも、月1回の外 段は行けないような場所でも、本人の希望を食や、ご本人のご希望に応じたドライブや喫茶外

出等に出掛けています。

把握し、家族や地域の人々と協力しながら

出かけられるように支援している

収早場 さわやかクルーノホームり先	岐阜県	さわやかグル	<u>レープホーム可児</u>
-------------------	-----	--------	-----------------

<u> 岐</u>	!	<u>さわやかグループホーム可児</u>			
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>T</b>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望やカに応じ て、お金を所持したり使えるように支援して いる	小額を自己管理されているご利用者もおられご家族が面会時確認していただいてますが、しまい忘れ等のトラブルのある方もあり、同敷地内の短期入所施設事務所の金庫で保管、買い物等の際にそれを利用し欲しい物を購入しています。		
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援をして いる	ご家族への電話希望があれば、その都度 対応しています。またご家族からの電話にで ていただきお話していただきます。要望や促 しにより、年賀状や手紙の投函の支援をして います。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快 や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広 さ、温度など)がないように配慮し、生活感や 季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている	られるよう工夫しています。お風呂には入浴		
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合っ た利用者同士で思い思いに過ごせるような 居場所の工夫をしている	リビングで他利用者と過ごされたり、自室 でテレビ・読書等されたりと、使い分けをされ てます。		
54	(20)	のを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の希望される物、また馴染みの家具などご意向にできる限り対応しているが危険を伴う物意外は原則制限していません。		
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立 した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーとなっています。 トイレは車椅子用と普通トイレを設置、浴室 は手摺・入浴補助具を揃え、安全かつ、でき る限り自立した生活ができるよう、ご本人に 寄り添うケアに努めています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100427				
法人名	社会福祉法人慈恵会				
事業所名	さわやかグループホーム可児	さわやかグループホーム可児(3ユニット)			
所在地	岐阜県可児市菅刈1389番地の1				
自己評価作成日	平成21年10月9日	評価結果市町村受理日	平成21年12月10日		

※事業所の基本情	青報は、公表セン	ノターページで閲覧	してください。(	↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】					
=					

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

٧.	V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	↓該当	取り組みの成果 当する項目に〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	O 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 ている	員は、家族が困っていること、不安なこと、求めいることをよく聴いており、信頼関係ができてい	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	〇 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 の.	いの場やグループホームに馴染みの人や地域 人々が訪ねて来ている 参考項目:2,20)	0	1. ほぽ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	営推進会議を通して、地域住民や地元の関係とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理者や応援者が増えている。	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ul><li>○ 1. ほぼ全ての利用者が</li><li>2. 利用者の2/3くらいが</li><li>3. 利用者の1/3くらいが</li><li>4. ほとんどいない</li></ul>		員は、活き活きと働けている 参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		員から見て、利用者はサービスにおおむね満 していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		員から見て、利用者の家族等はサービスにお むね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				·

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価票(3ユニット)

[セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

自	外	** D	自己評価	外部評価	<u> </u>
三	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .3	里念し	こ基づく運営			
1	(1)	〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理念 を共有して実践につなげている	法人基本方針を基礎として当たり前に地域と共に安心して暮らせるよう理念を揚げています。又ホーム内に基本方針を掲示し、朝、の申し送り時確認しています。		
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	う配慮いただいてます。(地域のお祭り、小・中学 校の運動会等)		
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	在宅総合福祉施設の機能を地域還元できるよう、グループホーム管理者及び、エリア内の各種職員が「出張講座」等の企画にも強力できる体制が整っており認知症に限らず介護に対する相談や施設での実習や見学等も行っている。		
4		〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービス 向上に活かしている	ホームでの様々な近況を報告し、会議の中で意見を求めてきました。また、できる限り、情報を公開(重要説明事項・契約書・運営規定・事故報告書・ヒヤリハットに関する統計、内容説明)ボランティアの依頼等こちらからも情報収集に心がけています。		
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取り組みを 積極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	利用者様の入退所の連絡はもちろん入院や報告すべき事故が発生した場合は、連絡を取っています。また、一昨年度市内5箇所のグループホームにて、可児グループホーム連絡会を開催、行政担当者との連絡調整を図っています。		
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準に おける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員間で玄関の施錠等も含め、気がつかないうちに拘束が行われていないかなど状況に 敏感であるよう努めています。		
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内での虐待が見過ごされることがな いよう注意を払い、防止に努めている	法人内の新人・中堅研修、可児エリア内での学習会で、虐待防止についての研修を行い、職員に周知しています。特に馴れ合いにならないよう、気をつけています。		
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それらを 活用できるよう支援している	管理者・介護主任は認知症リーダー研修や、岐阜県主催の認知症講座・介護支援専門員研修・他9名の職員が、認知症実践者研修を受けています。現在、地域権利擁護・成年後見制度を必要とされている対象のご利用者はみえませんが。		

		さわやかクルーノホーム可児 T	ტ ¬ == /m	L.I ±n = ∓ 1-	<del></del>
自	外	項目	自己評価	外部評価	
ē	部	^ -	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利 用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分 な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議、各ユニット会議、担当者会 議を開催し、職員からの意見提案を、ホーム運営 に活かしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働 けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニン グしていくことを進めている	法人研修会にて「新人」「中堅」「リーダー」研修の受講の奨励、エリア内学習会、介護福祉士受講講座、外部教育システムへの参加も奨励しています。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質 を向上させていく取り組みをしている	当法人にはグループホームが6箇所、姉妹関係の事業所が1ヶ所あり2ヶ月に、2ヶ月に1回サービス提供、コンプライアンスに関する情報交換や学習会を行っています。また「可児グループホーム連絡会」の有効活用に努めています。		
Ⅱ.3	と心が	と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けな がら、本人の安心を確保するための関係づく りに努めている	サービス利用に際しては、担当ケアマネージャーからの情報を基本に、直接ご本人、ご家族から心身状況は基より、生活歴・時代背景・家族構成・趣味・性格等、可能な限りの情報を収集しアセスメント実施している。サービス開始後も日々の生活の中から要望や新しい情報を直接聞き取るよう心がけています。		

		されてかクルーフホーム可元 T	台った畑	니 수민무지	ш —
自	外部	項目	自己評価	外部評価	
己 16	训	  ○初期に築く家族等との信頼関係	実践状況 ご本人からいただいた情報の実態確認やご家	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
'		サービスを導入する段階で、家族等が困っ	こ本人からいただいに情報の美感確認やこ家   族様にしか分からない「サービス利用にいたる経		
		ていること、不安なこと、要望等に耳を傾け	緯」を、ご利用者の性格、家族歴、生活歴、環境、		
		ながら、関係づくりに努めている	病歴、主治医、認知症の状況等を丁重に伺いアセスメントに反映し、サービス開始後も、面接時		
			や近況報告等にて情報収集の機会を持ち信頼関		
			係を築いています。		
17		〇初期対応の見極めと支援	常にご利用者、ご家族様の立場に立ち、近況の		
		サービスを導入する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極	把握と傾聴等より、「その時」のニーズを見極め、 何が一番必要か、ご利用者、ご家族様に方向性		
			が見出せるようご助言しています。選択に当たっ		
		ている	ては、それぞれのメリット・デメリットの提示を心が		
			けています。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 際品は、ました人籍される。 まの立場にお	職員はご利用者の生活歴や心身の現状を観察		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築	し、ともに掃除や洗濯干しや取り入れ等を行ったり、買い物、水まき、草取りなど、暮らしの中での		
		いている	役割を持っていただき、ご自身のやりがいの発見		
			を心がけています。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係	サービス開始がご利用者とご家族様の関係が		
		職員は、家族を支援される一方の立場におれず、木人と家族の終を大切にしたがに、世	希薄なものにすることが無い様、ご家族様の面会はもちろん、ご利用者様の外出・外泊に制限は作		
		に本人を支えていく関係を築いている	らず、緊急時以外の受診対応の調整や、家族会		
			や行事への参加の案内、衣替えなど、「近況報		
			告」を利用するなど、日常的にふれあう機会により、ともにご本人を支えていける支援を心がけて		
			います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援	面会や外出、外泊への規制は極力しないことを		
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に	基本に訪問を奨励している。また買い物等、日常		
		容易所との関係が返りがないよう、文接に	的な外出や、地域のご利用者の多い併設のデイサービスやショウートスティ等への訪問、情報交		
			換に留意し、知人、友人との交流に心がけていま		
			<b>च</b> 。		
21		〇利用者同士の関係の支援			
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが	職員がキーになる事を心がていますが、利用者 様の中には帰宅願望で心が揺れている利用者様		
		孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え 合えるような支援に努めている	に対して優しい言葉かけが合ったり、体調不良の		
		ロんのみ /な又版I〜ガは/しいる 	利用者様への心づかいがあったり、散歩の際、 積極的に手をつないでいただいたりと、支えあい		
			仮極的に手をうないでいただいにのと、文えのい   の光景がよくみられています。		

			自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		の関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に 努めている	総調整はもちろん、法人「サービスセンターに」早急に情報提供し退所後困らないよう担当ケアマネージャーを調整するなどの支援をしている。また、必要に応じて情緒安定を目的とした退所先への面会を実施しています。		
${ m I\hspace{1em}I}$ .	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネシ	ジメント		
		本位に検討している	日ごろより、ご利用者個々の嗜好や行事の 企画、また趣味の希望等を伺い、できる範囲 での実現を目指している。同時に、ご家族の 意向を「近況報告」や電話、ケアカンファレン スの際聞き取り、ご希望等、ご本人に合わせ 対応しています。		
24		等の把握に努めている	ご本人との会話を中心に、ご家族・知人の 方々から、情報を収集し把握に努めている が、中には様々な理由で把握が難しいケー スもあり、ケースバイケースでできる限りの 取り組みをしています。		
25			日頃の観察より、普段との違いへの気付きに努めることを基本とする。また加齢に伴う体調変化のリスクにり留意。必要に応じたバイタルチェック、食事や排泄状況を記録に記録に残し、朝夕のバイタルチェック、食事や排泄状況を記録に残し、朝夕の申し送りにて状況の把握と対応の統一確認をしています。		
26		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあ り方について、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイディアを反 映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の参加を基本としたカンファレンスを開催し意見、情報交換を実施しています。また、必要に応じて併設事業所の栄養士、社会福祉士、介護福祉士、看護師、介		
27		工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	日々ケアプランに沿った経過記録を残し、 モニタリング、評価表を通して実践結果を評価し、次のケアプランに活かす努力をしています。また、体調変化は介護・看護ケースに記録を残し、職員間の情報の共有、必要に応じ、ご家族に電話にて状態をお伝えし理解を促しています。		

	外	<u> </u>	自己評価	外部評価	<b>5</b>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅総合老人福祉施設の機能を生かし、ハード面の協有はもちろん、日中デイサービスのレク参加・短期入所の夜間対応・介護支援専門員からの福祉用具選定指導等、また関連医療法人(急性期総合病院、精神科病院)との連携を適宣調整しています。		
29		暮らしを楽しむことができるよう支援している	演芸等、各種ボランティアを積極的に受け入れている。また、消防署指導の救急・防災訓練等年2回実施、帷子小学校、中部中学校、万一の協力体制構築のため駐在所との地域交流に努めています。		
30		〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の 関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している			
31		えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護 を受けられるように支援している	当ホームの看護師の日常の状態観察を基本 に、夜間等緊急時の対応も併設事業所看護師と の連携を図り、迅速な対応を心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている	入院先の病院内のソーシャルワーカー、看護師 長との連携を取り入退院をスムーズに行う他、面 会に行き、近況を把握しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合いを 行い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる	加齢や病態悪化時により医療依存度が増大する場合、ご家族、主治医との連絡を図り、エリア長、生活相談員を交えカンファレンスを開催、ご利用者ご家族様の意思確認を図りそこで、ご利用者ご家族様のご希望を優先できる対応を心がけています。		
34		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全て の職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署主催の救急救命講習に参加し、A EDの講習も受けています。ご利用者の急変、事 故発生時の救急対応はマニュアル化してありま す。		
35		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	開催時より設置のスプリンクラー等の設備に依存せず、月1回の非難訓練を行い、日頃の災害防止に努めています。		

	• • •	さわやかグルーノホーム可児 I	自己評価	外部評値	<b></b>
自己	外部	項目	実践状況		
		しこしい苦こしたははてたはのロケの士		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支	·		
36	(14)	〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	法人「個人情報管理規定」にそった説明を		
		一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバ	実施、同意の場合ご家族より同意書に署		
		シーを損ねない言葉かけや対応をしている	名、捺印をいただく。これにより、果たすべき		
			義務として情報管理には十分配慮していま		
			す。また、介護援助の際は、他のご利用者		
			に気兼ねしないですむ排泄や入浴の実践		
			等、各種個人情報の管理に努めています。		
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援			
		日常生活の中で本人が思いや希望を表した	日々の傾聴を基本とし、各種情報収集を図		
		り、自己決定できるように働きかけている	りご本人を知りその上で、質問方法を考慮 し、できる限り希望に沿った日常生活の実現		
			し、できる限り布室に沿った日常生活の美現   のための支援を心がけています。		
			のための文版を心がいたいより。		
38		〇日々のその人らしい暮らし			
		職員側の決まりや都合を優先するのではな	ご本人の体調等その時の心身常態に合わ		
		く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を	せた食事や入浴・排泄・趣味活動を支援して		
		どのように過ごしたいか、希望にそって支援	います。		
		している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援	理美容に関しては、ご本人、ご家族様の希		
		その人らしい身だしなみやおしゃれができる	望の沿っています。また、2月に1回訪問理美		
		ように支援している	容があり理容師が直接希望を確認し、本人		
			の選択にお任せしています。普段の整容に		
			は職員が声掛けに配慮し、要望を伺った上で支援しています。		
40	(15)	  ○食事を楽しむことのできる支援	C又1友していまり。		
40	(15)	ひ良事を楽しむことのできる文法  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり			
		良事が楽しみなものになるよう、一人ひとり  の好みや力を活かしながら、利用者と職員	ご利用者様の嗜好を考慮し献立に反映さ		
		が一緒に準備や食事、片付けをしている	せ、下ごしらえ、配膳、盛り付け、片付けなど		
		2・ 相に手棚で及事、月刊りをしている	できる限り一緒に行っています。		
41		〇栄養摂取や水分確保の支援			
1		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を	体重増加の防止、水分制限の支持など		
		通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や	個々の食事摂取量を把握し状態に応じた対		
		力、習慣に応じた支援をしている	応に努めています。		
		-	•		=

自	外	G	自己評価	外部評価	<b>T</b>
三	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者の心身能力に合わせた 口腔ケアの援助をしています。またしゅう2回 を基本に必要に応じた頻度で義歯洗浄剤に て清潔を保つように努めています。		
		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かし て、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた 支援を行っている	できるだけ現状維持に努め、個別の排泄 方法を、職員で会議を持ち、変更の場合は ご家族様に連絡了解を得ています。		
44		〇便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	毎日の排尿・排便をチェック表にて確認し、便秘の訴えのある方や、排便コントロールの困難な方はご家族、主治医に相談し対応しています。また食物繊維の多い、野菜等の摂取、ラジオ体操、散歩等で身体を動かして予防しています。		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入 浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時 間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援 をしている	利用者様には1日おきの入浴を基本とし、 ご本人の心身状況に合わせた見守りと必要 に応じた介助を心がけ、ゆっくりと入浴して いただいてます。		
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れ るよう支援している	就寝時間はもちろん、居室の明るさなど、 それぞれご本人の好みに添えるよう、配慮し 安眠を支援しています。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の処方箋は各五利用者様用ケースに保管、どの職員も確認できます。処方箋が変わった場合は申し送りノートに記載して、情報の共有に努めています。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援 をしている	ご本人の生活歴等の観察から、趣味や得意な事を生かせる場面を創るなど、生きがいや達成感を感じていただけるよう支援しています。		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に 出かけられるよう支援に努めている。又、普 段は行けないような場所でも、本人の希望を 把握し、家族や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援している	歩や買い物に出掛けています。最低でも、月		

	岐阜県 さわやかクルーノ小一ム可児 「よ」、					
自己	外	項目	自己評価	外部評価		
	部	, , , ,	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望やカに応じ て、お金を所持したり使えるように支援して いる	小額を自己管理されているご利用者もおられご家族が面会時確認していただいてますが、しまい忘れ等のトラブルのある方もあり、同敷地内の短期入所施設事務所の金庫で保管、買い物等の際にそれを利用し欲しい物を購入しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援をして いる	ご家族への電話希望があれば、その都度 対応しています。またご家族からの電話にで ていただきお話していただきます。要望や促 しにより、年賀状や手紙の投函の支援をして います。			
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快 や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広 さ、温度など)がないように配慮し、生活感や 季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている	てます。			
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合っ た利用者同士で思い思いに過ごせるような 居場所の工夫をしている	リビングで他利用者と過ごされたり、自室 でテレビ・読書等されたりと、使い分けをされ てます。			
54	(20)	のを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の希望される物、また馴染みの家具などご意向にできる限り対応しているが危険を伴う物意外は原則制限していません。			
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立 した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーとなっています。 トイレは車椅子用と普通トイレを設置、浴室 は手摺・入浴補助具を揃え、安全かつ、でき る限り自立した生活ができるよう、ご本人に 寄り添うケアに努めています。			